

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年生 島田麻里

2016年8月6日(土)から8月21日(日)の16日間、カナダ・トロントにて語学研修を行いました。

1. 語学学校 International Academy of Canada Toronto

この学校の特徴の1つ目は、クラス数が多く、国籍の偏りが少ないことでした。筆記試験とスピーキングの能力別に、17個のレベルに細かくクラスが分かれ、学生数が多いことから同じレベルのクラスが複数開講されていました。また、入学の国籍制限、つまり学校全体の各国の生徒数に上限があったため、日本人、韓国人、メキシコ人、ブラジル人が多いですが、1クラス当たり約3～5人ずつでした。

2つ目の特徴は、教科書に沿って授業が進められ、学習内容に関する月2回3時間のテストがあることです。ある一定の成績を収めると、上のレベルへ進級できました。3か月以上長期滞在をしていた学生は、月1度クラスをレベルアップできるよう、熱心に勉強していました。プリントのみ配付しテストが無い学校よりも、はるかに真剣に宿題をこなし、英単語を暗記しました。

私は文法よりもスピーキング力が低いため、授業レベルをスピーキングに合わせて受講しました(12level Advance01)。夏は一番学生が多い時期で、毎日新しい学生が教室にやってきました。2週間に会った学生の国籍は日本・韓国・台湾・タイ・メキシコ・ブラジル・トルコ・エクアドル・コロンビア・フランス・イタリア・サウジアラビア・イランで、アジア系と南米系が大半を占めていました。先生は大阪に数年住んだ経験があり、親近感を感じました。

午前中の授業は教科書に沿って進められ、時々配付されたプリントを使用しました。第1週目の授業テーマが「犯罪」で、先生はトロントの事件、学生は出身国の事件やトロントで聞きした怖かったこと、犯罪などを紹介し合いました。犯罪に関する長文読解、推理小説のようなリスニングもしました。日本は南米に比べて治安が良いためか、クラスメートの話にとっても恐怖を覚えました。テーマに基づく単語を沢山暗記した甲斐があり、帰国後に英語ネイティブの小学生向け推理小説を読むと理解しやすくなりました。

第2週目のテーマは「人の見た目と性格、能力」で、自分の性格と他者から見た性格・高校生の時に着ていた制服・職業上の制服・得意技について話しました。また、制服については、テーマに沿った短いエッセイを書きました。先生は頻繁に添削して下さるので、何度も書き直しました。私にとって冠詞は英語学習における最大の謎です。今後の目標は、英作文をするときに少しでも冠詞を意識して書くことです。教室は6人掛けの机が3つあったので、クラスメートと意見交換するときは2～4人で話しました。授業中に席替えやペア替えがあ

り、少人数でいろんな人と話しました。

月1回、金曜日の授業が午前で終了し、先生と学生がランチに行きます。この日は学校から地下鉄とバスを乗り継いで、イタリア料理店に行きました。日本と違いトロントの地下鉄やバスはドアの開閉時間がとても短いため、生徒12人で行動するのは大変でした。3人はぐれて後から来ました。



写真1：先生とクラスメートでランチ



写真2：2週間の語学研修最終日

2. ホームステイ

滞在先は、トロントの中心街から地下鉄で約20分の静かな住宅地でした。ホームステイマザーとそのお嬢さん、猫1匹の家。そこに、スペイン・バルセロナ出身の19歳の女の子が滞在していました。ホームステイマザーはロシア人で英語の訛りが強く、初めて会った時に、「飛行時間はどれくらい？」と聞かれても英語だと分からない程でした。しかし、3日もすれば耳が慣れてきて、徐々に会話ができるようになりました。

朝食はサンドイッチ、昼食はサンドイッチまたはパスタ、夕食は米・野菜・豆に肉魚でし

た。日本では珍しい全粒粉パンが中心です。

スペイン人の Lupe さんは違う語学学校に通っていました。2 日に 1 回くらいは夕食を一緒に取り、お互いのことを話しました。スペイン語と日本語で同じ発音の国名がいくつかある、バルセロナではカタルーニャ語を話す、スペインとフランスの間に小さな国があることも知りました。日本語にはドア・ベッド・スプーン・フォークなど英語が浸透しており、英語のように発音する単語があると紹介すると驚いていました。放課後に待ち合わせし、セントローレンスマーケットという市場に行きました。



写真 3：宿泊先で会った Lupe さん

3. 交通

交通手段は、地下鉄・電車・バス以外に路面電車がありました。地下鉄の駅から離れた場所は、バスと路面電車が便利でした。地下鉄は土日にある区間がたびたび閉鎖になるようにしました。私が滞在したときも、閉鎖された区間はシャトルバスで移動しました。最初は地下鉄事情を全く知らなかったのも、ある駅でお客さんが皆降りるのを見て慌てました。

カナダの冬は寒さが厳しいため、冬でも快適にすごせるように地下街が充実していました。PATH という地下通路はオフィス街の 6 つの駅をつなげています。単なる通路ではなく、ビジネスマンが昼食をとるフードコート・洋服店・雑貨屋・カフェ・スーパーなどが集まる巨大なショッピングセンターでした。

4. 観光

週末にナイアガラの滝とアルゴンキン州立公園に行きました。ナイアガラの滝では、チェコ人と一緒に観光しました。チェコの方は、地方に住んでおり、隣の家は 450 メートル離れているそうです。また、家の敷地内で、リンゴのような果実のなる木・ジャガイモ・ニンジン等の野菜を育てるうえ、毎年 2 トンのハチミツを収穫するそうです。さらに、家畜も飼い、年 1 回敷地内の池の魚を引き上げるそうです。トロントに来た理由は大都会を見たかったか

らだと話してくれました。大阪に住む私とは別世界の暮らしぶりにただただ驚きました。

アルゴンキン州立公園は、オンタリオ州最古の州立公園、宮崎県とほぼ同じ大きさで、沢山の湖があります。白樺やカエデが茂るハイキングコースはとても静かで気温が 20 度と肌寒かったです。カナダの大自然を感じるひとときでした。ほかの語学学校の学生とも仲良くなりました。



写真 4：夕暮れのナイアガラの滝



写真 5：アルゴンキン州立公園 中国と台湾の友人

5. まとめ

語学学校のクラスが多い分レベルが同じくらいのクラスメートと話せるのでとても授業に馴染みやすかったです。発言・質問しやすい雰囲気の中、スピーキングを十分に練習できました。

以前「読めない英語は話せない(発音できない)」と聞いたことがありましたが、まさにその通りでした。見たこともない文章を急に話せるようにはなりません。スピーキングとリーディングは決して別個の力ではなく、常につながっていると感じました。スピーキングに必要な語彙力・表現力は本を読むことで養われます。スピーキングだけではなく、本を読んでスピーキングの土台となる言葉にできるだけ多く触れたいです。